

## 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	早稲田大学	拠点番号	D18
申請分野	人文科学		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	演劇の総合的研究と演劇学の確立 Development of Research and Study Methodologies in Theatre		
研究分野及びキーワード	〈研究分野: 文学〉(芸術諸学)(演劇学)(日本文学)(英米文学)(中国文学)		
専攻等名	演劇博物館・文学研究科芸術学(演劇映像)専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 竹本 幹夫 教授 他 25名		

### ◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成16年1月現在)を抜粋

#### <本拠点がカバーする学問分野について>

本拠点は演劇学の研究を目指す。ここで言う「演劇学」とは、全世界の演劇以外にも舞踊・音楽・オペラなど舞台芸術の多くを包摂するのみならず、映像をも研究対象とする。本拠点では、日本はもちろん、中国語圏、英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、スペイン語圏、ロシア語圏の演劇研究を網羅する人材を結集しており、また理工系の劇場研究の専門家も加わっている。本拠点における演劇学は、従来の文芸諸学に比して関連分野が広汎で、まさに総合芸術学の名にふさわしい実質を備えている。

#### <本拠点の特色及びその目的等>

本拠点では、従来の各国別の閉塞的研究を豊富な人材の参集によって世界的視野のもとでの研究へと変貌させ、越えがたい壁のあった演劇の実技研究と実証的歴史研究とを統合して、新たな学問分野としての演劇学を創設することを目指す。国籍・学籍の違いを問わずに研究生を公募し、育成する。世界的な視野のもとでの演劇研究は、国ごとで個別に行われていた業績評価のあり方を変貌させ、世界標準の業績評価体系が確立することになる。これはまた人文科学の閉鎖性を打破する契機ともなることであろう。

#### <COEを目指すユニーク性>

本拠点は東洋唯一の演劇博物館である。また西洋の演劇博物館には研究組織が付随していない。上記のような演劇の総合的研究をなし得るのは、本拠点を置いて他にない。本事業では、拠点をアーカイブ構築研究・演劇理論研究・古典演劇研究・芸術文化環境研究の4コースに分ち、演劇博物館が70年の伝統を通じて蓄積した資料資産を利用しつつ、さらなる資料収集と公開、各国演劇理論の比較、日本古典演劇の復元、演劇を取り巻く環境と劇場運営の手法等々を幅広く研究する。

#### <本拠点のCOEとしての重要性・発展性>

演劇研究は、メディア革命が叫ばれて現在やや沈滞気味の文芸諸学の中にあって、現在もっとも将来性の期待される分野である。演劇学は世界的な規模ではまだ学問分野として認知されていない面があり、現に科学研究費の分野別細目表には、演劇学の名はない。世界各国には演劇研究者が少なからず活躍しているが、ヨーロッパ以外では国境を超えた学术交流の実績は少ない。またヨーロッパの演劇学も学界の規模は小さい。こうした状況下にあって、本拠点がCOEに選定された意味はきわめて大きい。

#### <本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果>

1. 東西古今の演劇と映像を専攻する150名(終了時)の特別研究生は、世界の演劇学界の中核となる。
2. 本拠点が行っている演劇現場と研究者との協力関係は、今後の演劇研究の新しいあり方の主流となる。
3. 世界の演劇研究者との学术交流が活発化し、本拠点は世界の演劇研究の中心となる。
4. 演劇研究の方法や文化行政の指針についての、画期的な提案が可能となる。

#### <背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等>

能楽・文楽の世界無形遺産指定、外国における黒澤・小津映画や舞踏の影響に代表されるように、日本から世界の演劇界に情報発信する時代となった。こうした状況を背景に、アーカイブ構築研究では演劇DBメタデータの提供や映像資料の発掘、演劇理論研究では全世界の演劇・舞踊の総合的研究、古典演劇研究では世界の研究者の糾合、芸術文化環境研究では地域の公共劇場と協力しての日本における新たな文化行政の可能性探求を目指す。

機 関 名	早稲田大学	拠点番号	D 1 8
拠点のプログラム名称	演劇の総合的研究と演劇学の確立		

◇ 21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。

(コメント)

世界的な演劇研究センターとしての地位を確立するという当初計画は順調に実施に移され、アーカイブ構築コースにおける無声映画のスタインバーグ監督「女の一生」(1929年)の発見、演劇理論コースにおけるフランス古典劇朗読復元研究の紹介、古典演劇研究コースにおける吉田文庫の世阿弥能楽論資料の紹介及び松廼屋文庫本「三道」の影写本の発見など、それぞれのコースにおいて具体的な成果があがっており、また国内外の若手研究者を組織的に育成するという人材育成の面においても着実に実施されており、現行の努力を継続することによって目的達成は可能と評価される。